

部会だより

歴史・文化部

令和2年はコロナ禍の中、事業を実施するにあたって、事前準備（三密対策）に時間を費やし、次の事業を無事終えることができました。

1. 「御代参街道を歩く」（土山～日野）

令和2年11月21日・参加者35名。御代参街道の土山起点から出発し、街道の随一の難所である「笹尾峠」を全員が難なく制覇しました。鎌掛宿では、日野町唯一のヴォーリズ建築設計の「岡家住宅」を見学し、癒しの一時でした。

16時過ぎ全員無事に布施公園に帰ってきました。

2. 布施山城遺跡への山道整備

令和2年10月25日、11月29日の2回。両日とも部員3～4名が汗を流しました。一度、布施山遺跡を見学して下さい

3. 市辺歴史発見塾「保内商人」について

詳細は1頁の報告に紹介していますが、講演は大変好評で、「保内商人がスッキリした」とのお礼の連絡もありました。
※2月に市辺歴史発見塾「琵琶説法」を計画していましたが、コロナ感染が拡大している現状から、来年度へ延期とさせていただきます。

歴史・文化部 部長 苗村 久男

健康・福祉部

人生の寿命が延び、“人生100年時代を目指して!!”のキャッチコピーが、最近皆さんも目にされていることと思います。昭和40年代後半、旧八日市市の8地区で社会福祉事業の円滑な運営と組織活動の強化促進により「地区社協」が設立されました。

今では、“**ふだんのくらしのしあわせ**”ということで「地域福祉」の重要なことが言われています。それは「地域住民が話し合い、共に見守り、支え合い、つながり合い、豊かに暮らせる地域をみんなで作り出す」地域住民主体の福祉活動が「まちづくり」を進めるものと思います。

身近な所では

- ① 困った時はお互いさんにお節介し合える地域
 - ② 「得意」や「好き」でみんながいそいそ輝く元気な地域
 - ③ 一人ひとりの命と暮らしを守る「支援」がある地域
- 3つの実現をみんなで目指しましょう。

健康・福祉部 部長 今井 肇

安全・安心部

例年開催されます万葉フェスタが中止となり、残念ながら、バザー等への参加ができませんでした。来年度には状況が改善されて開催ができることを期待しています。

検討を進めておりました『減災カルタ』については、部員の皆様のご協力により、完成することができました。カルタは本年度中に東近江市内の小学校等に配布させていただく予定です。また、コミセンには予備のカルタがありますので、防災・減災への取組みの一環として、多くの方にチャレンジしていただければと思います。

最後になりますが、例年開催しております普通救命（A E

D）講習会につきましては、現状を踏まえて本年度の開催を中止させていただきます。

安心・安全部 部長 柴田 俊幸

子ども健全育成部

昨年の主な活動として、文化祭当日に市辺コミセン玄関前ブースでの「手作りしおり」の配布を行いました。

例年より来場者は少なかったようですが、親子でお気に入りのしおりを一緒に探したり、お孫さんが喜びそうなしおりを持って帰る光景など、家族のぬくもりをたくさん感じる楽しい時間を過ごせました。

また、事前に作っておいたしおりが予想を上回る人気で、あっという間に足らなくなったので、急きょ小学生にも手伝ってもらいながら作成したりと、慌ただしくも活気のあるブースとなりました。

新年を迎えても新型コロナウイルスの不安は残りますが、皆さんと一緒に子どもたちとその家族の笑顔がより多くみられるような活動をしていきたいと思えます。

子ども健全育成部 部長 森 耀一

地域活力部

本年はコロナ災禍ですが、地域活力部は屋内の活動予定はなく、屋外では3密を心配することもなく、順調に活動できたように思います。

昨年6月に万葉の森に植えたムラサキが12月初旬で約4分の1程生育していました。特に7月の長い梅雨は、雨に弱いムラサキには難敵ですが、半数ほどが持ち堪えました。

また、自宅でのムラサキは12月の上旬現在半数程度がまだ茂っている状態です。来年度の準備として万葉の森のレリーフの裏にブロック10個を敷き水はけのよい土を準備しています。苗が順調に育てば条件の異なる場所と2カ所に植栽する予定です。

地域活力部 部長 森島 安夫

編集後記

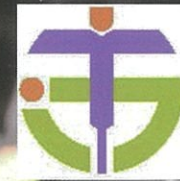
明けましておめでとうございます。

昨年はコロナ・コロナで大変な一年でした。

イベント行事、コンサート等が自粛になりほとんどの行事が中止に追い込まれました。市辺地区の住民自主事業の三大事業の内、ふれあい運動会・万葉フェスタが中止を余儀なくされました。

海外ではワクチン接種が始まっていますが、日本は春頃からと報道されています。ワクチン接種が始まるまでの間、三密・マスク着用・手洗い消毒・毎日の検温を実施して予防に努めましょう。早いコロナウイルスの収束を願うばかりです。

今年は表紙写真の伊勢神楽に邪気を払って貰い、より明るい年になりますようにお祈りします。MF



市辺地区まちづくり協議会広報誌

いちのべ

万葉のまち 市辺

第54号

令和3年1月



「今年も元気に過ごせますように！」と「獅子舞」で厄払い！東市辺三所神社にて

発行：市辺地区まちづくり協議会 / 東近江市市辺町2391 市辺コミュニティセンター内 TEL&FAX 050-5802-8392

Facebook



ホームページ



新型コロナウイルス禍を 乗り越えましょう

市辺地区まちづくり協議会
会長 須田 智廣

市辺地区の皆様、新年あけましておめでとうございます。平素は、まちづくり協議会の活動に対しましてご支援ご協力をいただき心からお礼申し上げます。

さて、昨年は、新型コロナウイルス感染拡大の中、私たちの日常生活も大きく制約され、ストレスのたまる毎日を余儀なくされました。

新年に入り、新型コロナウイルスのワクチンの接種が現実的になりましたが、これを機に一日も早く終息に向かうことを祈るばかりです。

新型コロナウイルス感染症の影響により、市辺まちづくり協議会として計画しておりました活動を中止したり縮小したり、部会の活動メンバーも悩みや課題を感じながら可能な範囲内で取り組んでいる状況です。

当分、収まらないコロナ禍と一緒に過ごす「withコロナ」、さてどうする？新型コロナウイルス感染症の拡大防止と社会経済活動を両立していくために、「自分が感染しない」、「ほかの人にも感染させない」という意識を持って、日常生活を送ることが大切になります。

お互い、行く先の分からぬ不安な毎日ですが、鬱屈したり、ストレスにならないようちょっぴり頑張ってみましょう。

みんなでエールを送りあって、コロナを乗り越えましょう。



新年のご挨拶 市辺地区の賑わいに向けて

市辺コミュニティセンター
館長 木田 行男

新年おめでとうございます。

昨年はコロナで明けて、コロナで暮れた一年でしたが、各種団体はじめ、地区住民の皆様におかれましては難しい判断を求められ、大変ご苦労があったものと思います。

まだまだ安心出来ない状況ではありますが、アフターコロナを見据えて、また、少子高齢時代に叶った事業への取り組み方を考える好機でもあると考えています。

新年のご挨拶に、市辺地区には追い風となる道路インフラ整備の紹介をさせていただけることを嬉しく思います。昨年の「市辺地区まちづくり懇談会」でも話題になりました、仮称：黒丸スマートインターチェンジの実現に向けたスタートの年となります。

蛇溝町の地先であります黒丸パーキングエリアに接続されるスマートインターから、万葉の森「船岡山」までは約3kmあまりに位置します。市外はもとより県外からも多くの観光客を迎えることができるものと期待できます。

道路インフラは地域の発展には欠かせません。スマートインターが生み出す「人と物」の流れによって、市辺地区に賑わいが生まれることを願っております。

皆様にとりまして、この一年が、より一層の飛躍の年になりますようお祈り申し上げ新年のご挨拶とさせていただきます。



健康・福祉部

「ご長寿ふれあいサロン」 開催される！

昨年12月2日（水）主催 市辺コミセン、共催 市辺地区社協及び市辺地区まち協健康福祉部。市辺地区の80歳以上の高齢者を対象とした「ご長寿ふれあいサロン」が市辺コミセンホールで午後1時30分から3時まで開催されました。



当日は、参加者37名、ゲスト8名、スタッフ5名計50名が集まりました。アトラクションは、真鍮家文好御一行をお迎えして、座敷音頭、ハーモニカによる懐メロ演奏と合唱、紐による奇術に引き続いて「ヤ、コリャドッコイショ」「ホラ、シッカリセ」で始まった江州音頭には参加の皆さんの体が動いているように見えました。

コロナ禍の中、色々対策を採り入れての開催となりました。市辺コミセンに遠い町内の参加者には、市行政バス運行による送迎が行われました。



この事業は、来年度も継続して開催予定です。その頃は、コロナ禍が収束していればと祈るばかりです。

健康・福祉部 部長 今井 肇

歴史・文化部

御代参街道を歩く

今年が最終となる「御代参街道を歩く」を11月21日（日）に開催したところ、35名の参加者がありました。コロナ禍の中、運動する機会が少なかった為か、皆さん張り切っておられる様子でした。参加者の榎木氏から道中短歌が寄せられましたので披露します。



街道の 標を見つけ 気が締まる
未知の世界に いざなう



さあ行くぞ 昔の人が苦労した
西の笹尾か 東の箱根



鳥居の 道なき道に 樹木が
くっつくつりか 頭打つ



何でかな 笹尾の隅れ わからずに
足を踏み入れ おどろく世に



疲れたな おなかすいたな 警敬寺
足投げ出し 舌つづみ打つ



岡さんの 庭に大きな したれ桜
来春に 再会を待つ

歴史・文化部 部長 苗村 久男

(一部を紹介しましたが、全体をFacebookに掲載中です)

市辺地区まちづくり懇談会 —「総合エリア研究会の提言」を報告—

11月18日（水）市辺コミセンに於いて、市長はじめ市政関係者15名と、市辺地区からは自治会連合会とまちづくり協議会の代表者15名と傍聴者の方々によるまちづくり懇談会が行われました。



今回は「三津屋バイパスの共用開始とその効果について」「自治会加入率低下の問題について」や「黒丸スマートインターチェンジの展望について」等が懇談のテーマでした。

また、総合エリア研究会による「市辺幼稚園と勤労青少年ホーム等跡地」に「防災機能を有し、住民が立ち寄りやすく交流が図れ、また様々な情報発信の拠点となる施設の実現」が市辺地区住民の総意として報告されました。

歴史・文化部 市辺れきし発見塾

「保内商人」について

12月6日（日）前八日市郷土文化研究会会長の中島伸男さんを講師に、「保内と保内商人、村の暮らし」と題して講演会を開催しました。保内の「保」とは比叡山延暦寺の僧・得珍の開発による開発地の総称です。

その中の下四郷に東破塚（東市辺）、蛇溝、および三屋（三津屋）が含まれており、中世の時代に保内の商人が商隊を組んで鈴鹿の峠を越えて伊勢に商いに出ていたそうです。

今堀日吉神社文書には、その時代の村の掟のことが記録されており、自分たちで「決まり」を決めて村を運営してきたこの地域の先人たちの知恵や暮らしぶりがよくわかりました。



自然・環境部

ゆいの杜子ども園児芋掘り

コロナ禍の子ども園は、事業の組み立てが大変で、芋掘りに充てられる日が10月は22日のみ。予備日は11月にしか取れません。22日が、もし雨なら次は11月。寒いだろうな。子ども達がかわいそう。どうか晴れますよう。部員一同「晴れ」を祈りました。前日の予報では「午後雨」。何回もの打ち合わせの末、登園を少し早めて、降る前に終わるよう決めました。

9時半、芋つるを刈り終える頃、かわいいカラー帽の列が、こちらに向かっていきます。挨拶の後、長靴と手袋、身支度を整え、間隔をあけて、芋畑へ。

部員達の補助で真っ赤なお芋が顔を出すと大喜び。お土産のお芋も車で園に。「ありがとう！」を何度も言って、雨が降る前に園に戻りました。



講演会 「ゴミを知って、ゴミを減らそう」

恒例の「見学研修」については、コロナ禍の中で実施をやめ、地域で環境について学ぶ機会として「講演会」にすることにしました。

市役所廃棄物対策課の出前講座「ゴミを知って、ゴミを減らそう」を申し込み、11月17日に「講演会」を行いました。地区内の自治会で回覧をして頂いたこともあり45名と、沢山の方の申し込みを頂きありがとうございました。

ゴミ出しルール、ゴミの種類分け、特殊ゴミの持ち込み先等詳しく教わりました。終了後、沢山の質問が次々と出され、地域の方の意識の高さが伺われました。

啓発物の「おかえりティッシュ」は、皆で集めた紙バックが再生されて返ってきたものです。

再生品を使用することで「リサイクル」が成り立つことも学んでいただきました。

自然・環境部 部長 小西 恵美子

